

GINGA REPORT 401

No. 97
2023.6

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和5年6月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

6月の星空

星図：ステラナビゲータ11/(株)アストロアーツ

牛を守るカウボーイ

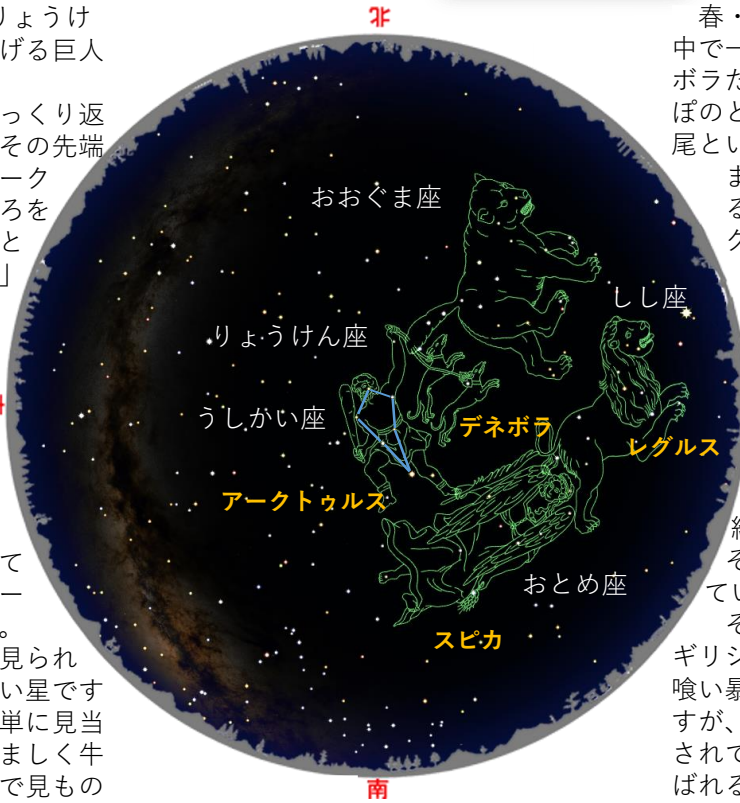
6月15日21時の星図

小さな王様

うしかい座は2匹の猟犬、りょうけん座を従え、こぶしを振り上げる巨人の姿を表した星座です。

うしかい座はネクタイをひっくり返したような形をしています。その先端でオレンジ色に輝く一等星アークトゥルスは、おおぐま座の後ろをついてまわるように見えることからギリシャ語で「熊の番人」という意味の名前です。おとめ座のスピカ、しし座のデネボラと合わせて春の大三角を作っていることでも知られています。日本では梅雨時のシンボルにふさわしく、さみだれ（五月雨）星という呼び名もあります。

うしかい座を現代流にみたとすると、牛を守っているカウボーイといったところでしょうか。アークトゥルスは四日市から見られる一等星の中で二番目に明るい星ですので、うしかい座の位置も簡単に見当がつきます。春の夜空でたくましく牛を守る姿はこの時期ならではのものです。



春・夏・冬の大三角を構成する星の中で一等星でないのは、しし座のデネボラだけです。デネボラは獅子のしっぽのところで輝いているため、ししの尾という意味があります。

また、そんなデネボラが輝いているしし座の胸の辺りには一等星レグルスが輝いています。「小さな王様」と呼ばれているのですが、この名前は地動説を提唱したコペルニクスが命名したと言われています。なぜ小さな王様と呼んだのか。それは百獣の王の胸で輝いていることや、レグルスがほぼ黄道にあり、毎年夏に太陽がここを通ること、また純白に輝いていることなどから、そう呼んだのではないかとされています。

そんなレグルスが輝くしし座は、ギリシャ神話ではネメアの森に住む人喰い暴れ獅子として描かれているのですが、最後には英雄ヘラクレスに退治されてしまいます。さすがの王様と呼ばれる獅子でもヘラクレスには敵わなかったようです。

今月の天文トピック

一年で最も昼が長い日

今年、太陽高度が最も高くなる夏至の日は2023年6月21日です。「夏至に至る」と書くように、北半球では1年のうちで昼の時間が最も長く、夜の時間が短くなり、この頃から夏の盛りに向かっていきます。

1989年以前の夏至点（夏至の日に太陽がある場所）はふたご座にありましたが、現在はふたご座の境界に近いおうし座に移動しています。移動していくのは、地球の歳差運動によるためです。歳差運動とは、回転する物体の回転軸が首を振るように回転していく運動のことです。

プラネタリウム☆ステージ 報告

プラネタリウム☆ステージ ～宇宙ってヤバくない～



大迫力の宇宙の映像と音楽、今までにないお芝居要素を取り入れ制作した今回のイベント。こども達が宇宙人や星の先生と一緒に、うちわを振り〇×クイズに参加してくれている姿がとても可愛かったです。

また、「一度きりのステージではもったいない。」との声も頂き、嬉しく思います。今後も楽しいイベントができるよう、努力して参ります。

博物館主催 スターウォッチング

博物館主催きらら号観望会

日時：6月24日（土）19：00～20：30

場所：博物館前市民公園

内容：月・金星・火星を見よう



※当日受付・参加無料です。
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)

編集後記

6月というと、雨といったイメージが強く、天体観測はできないと思いがちですが、意外と梅雨入り前や、梅雨入り直後の頃は晴れの日が多く、星を観測するにはねらいめです。星は日々刻々と移動していくので、おおぐま座やうしかい座など、梅雨の前後では見え方が違ってきます。お気に入りの星座がどこに移動しているか楽しみに梅雨明けを待つのもいいですね。

6月の月

4日  満月

11日  下弦

18日  新月

26日  上弦